



平城宮跡でボランティア活動をしている私たちの会報紙です

天平のひろば

2022年10月発行

84号

NPO法人平城宮跡サポートネットワーク（NPO平城宮跡）
〒630-8577 奈良市二条町2-9-1 奈良文化財研究所内

☎/Fax 0742-34-7713
e-mail : npoheijyou@yahoo.co.jp
http://www.heijyonet.nara.jp

東楼の復原工事について

特別史跡平城宮跡内では、仮設の現場事務所を建てる際にも「文化財保護法」に基づく手続きが必要です。地下の遺構状況を把握するなど丁寧に準備を行い、東楼復原整備を進めています。令和4年9月の時点では、基礎工事に取り組むとともに、貴重な木材の検査、原寸図の作成、加工を行う段階に入っております。

東楼復原整備工事の概要

工事名	平城宮跡歴史公園第一次大極殿東楼復原整備工事
工事期間	令和4年4月～令和7年11月予定
建築面積	624.70㎡
延べ面積	525.71㎡
最高の高さ	17.69m
軒の高さ	12.35m
主要構造	東楼 桁行五間 梁間三間 楼造 木造2階建寄棟造 複楼築地回廊 木造平屋建
施工者	株式会社竹中工務店 大阪本店

東楼及び令和4年3月に完成した大極門（南門）を接続する回廊を造っていきますが、素屋根内の現場では、日々作業は行っているものの、残念ながら現時点では皆さまにご覧いただけるものはない状況です。

東楼は、宴の用途にも使われたと考えられています。工事の進捗とともに皆さまにご案内できるツールなどを整えていきます。

施工過程においても、“奈良時代を今に感じる”空間の創造に寄与できるように努めてまいります。



東楼完成イメージ(大極門北側から東南方向を望む)

整備の一方で、次世代へとつなぐ大極門（南門）の管理も行っています。台風シーズンに入っていますので、より気を引き締めて業務に取り組みます。

(飛鳥歴史公園事務所平城分室 出口義治)

夏休み体験学習

8月28日文化・ガイド部会12名は、いざない館で「平城京歴史体験イベント」を管理センターの協力のもと、精力的に実施しました。

多目的室の参加は「かりうち（13組29名）、平城京かるた（3名）」、館内通路ものづくり体験コーナーでは「古代瓦の拓本づくり（13名）」を実施。“奈良時代を今に感じる”特別な空間で初めての夏休み体験学習に懇切・丁寧な対応をしていました。

参加者はSNSで見たと古代瓦の拓本づくりに真剣にチャレンジしていました。



ものづくり体験コーナー「古代瓦の拓本づくり」の様子



平城京 軒丸瓦/軒平瓦の拓本



かりうちの様子

(文化・ガイド部会)

第45回歴史文化講座は、9月17日平城宮跡資料館で80名が参加して開催。

岸本康興理事が講演の要旨を纏めました。

国が人民を支配するには、人民を縛りつけ逃散や浮浪を禁じる



「本貫地主義」が都合よく、江戸時代に至るまで原則だった。一方で律令では奈良時代の税である「調庸」は、農民が村を出て、直接都へ運ぶことが定められており、矛盾しているようにも見える。

税のうち、「租」が非常時に備えるということもあって、各国で正倉に貯えられたのに対し、調庸は都へ運ばれ、直接中央の役所の運営費や官人の給与にあてられた。そのため、調庸は80近くに上る多数の品目が定められている。郡・国府で取りまとめ、品目の調整などを行った後、郡単位でキャラバンを編成し国司が「貢調使」、郡司が「綱領郡司」となって、都へ「運脚」した。このとき荷物に付けられた木簡が多数発見され、長屋王邸跡からも発掘されている。

運ぶ人夫は、各戸に不平等にならぬよう割り当てられ、一生のうち何度かは「運脚夫」として都へ上ったと思われる。運ばれた調庸は、一旦「調邸」と呼ばれる各国の施設に収められ、民部省で数量、品目などの点検を受けた。現物は品目ごとに郡司が民部省、大蔵省、宮内省などへ、また寺社・高級官僚などの領地(封戸)から徴収してきた物はそれぞれの所へ納入した。納入の証拠として民部省から「返抄」を受け取った。

都へ着いてから納入が完了するまで1~2ヶ月は要したとみられるが、その間運脚夫はずっと荷物運びをしていたわけでもなく、都見物や、お寺巡りなどしていた、などということも考えられる。

『続日本紀』には、納入が終わって都から帰る運脚夫が、食料が尽きて行き倒れる例があるので改善せよ、といった記事が何度も出てくるが、やや誇張されているのではないかと。そう何度も犠牲が出ては、制度が成り立たない。本貫地主義が原則だが、流通経済や

運送業が未発達でもあり、国家の理念として、「農民が自ら作ったものを自ら収める」、「都の威容を人民にしらしめる」ということがあったのでは。また運脚夫にとっては、一生に何度もない、村から外へ出て、都や途中の人や物に触れる、ある意味ワクワクする機会であったかも知れない。(編集部)

平城宮跡歴史文化講座(次回)

1月21日 市 大樹(大阪大学大学院文学研究科教授)

桜の木の剪定 - NPO平城宮跡に期待 -

平城宮跡は、管理区域毎に行政区が分かれています。当法人は、指定された低木の剪定や草刈りを21年間にわたり行い、平城宮跡で緑の保全活動を続けています。

(緑の保全部会)



桜の木も育成・景観維持対策で刈りこみ(上下)



平城京天平祭 2022 夏

「天平たなばた祭り」は朱雀門ひろばで8月19日から3日間開催、ますます豪華な賑わいとなっています。

次回10月22日・23日は、「平城京天平祭・2022秋」みつきうまし祭りを開催します。



(写真提供:平城宮跡管理センター)

好評 平城京 歴史講座

＜平城宮跡史跡指定 100 周年記念一環事業＞

鈴木浩さん(NPO 平城宮跡理事長) が 7 月 9 日 86 名に「**棚田嘉十郎、平城宮跡保存運動の軌跡**」と題し、史跡指定 100 周年記念一環事業の最初の講演。



100 年前、平城宮跡を訪れた和辻哲郎は『古寺巡礼』に書き残している。それは棚田嘉十郎が平城宮跡保存運動に命をかけて取り組んでいた最中だった。万

延元年奈良市須川生まれ、25 歳で植木職に就く。JR 関西線が湊町奈良間の開通で古の御所へ訪問が盛行する。当初、嘉十郎は法華寺を御所跡と説明していたが知人の山下鹿蔵から佐紀村に宮跡の存在を教示され大黒の芝地に牛糞が山の如く積まれ落涙する。「大極殿狂人」とあだ名されながら、宮跡の瓦・敷石を買い集め、北浦定政の図面を印刷した春日扇を作成し各方面に配布するなど、家売り土地を担保にして私財を投げ売ってまで保存運動を行っていたが、嘉十郎 54 歳にして脳溢血で倒れ、失明入院し生活が困窮する。その後、大阪の宗教団体が嘉十郎に接触し匿名の寄附を受託するが違反があり抗議するが無視される。汚れない保存運動に邁進する嘉十郎は、最終的に 1921 年 8 月 16 日(大正 10 年)「棚田嘉十郎死をもって不明をお詫びします」と自決する。1923 年に嘉十郎の死を悼み宮跡保存首導者・棚田嘉十郎墓とし、雑司町の空海寺に碑を建立。(編集部)

山口等悟さん(奈良市埋文センター 学芸員) が 8 月 6 日 82 名に「**古墳時代後期の埴輪生産―菅原東遺跡**」と題し講演。



菅原東遺跡発掘では、円筒埴輪や形象埴輪(家形埴輪、太刀形埴輪、人物埴輪、動物埴輪)などが豊富に出土され、大阪層群の粘土を用い、埴輪の生産拠点としていたことが分かった。埴輪は大和盆地だけでなく摂津〜

近江と近畿の広い地域に製品が供給されている。これは埴輪そのものか、工人・技術が移動したか、いずれかの可能性がある。『日本書紀』垂仁 32 年 7 月己卯条に日葉酢媛命の崩御に野見宿禰が生きた人間の代わに埴輪を埋納するように垂仁天皇に勧め、天皇は喜び土師の姓を与えたと記述されているが、日本の古墳に殉

葬の痕跡がないことなどから祖先伝承として作り上げたものではないか、奈良時代には野見宿禰の子孫と名乗る土師氏たちが菅原や秋篠を拠点としていたことは明らか。

『日本書紀』の土師氏の逸話は、4 世紀の宝来山古墳などでの埴輪生産を反映した可能性が高い。

『続日本紀』には天応元(781)年と延暦元(782)年に菅原氏、秋篠氏に改姓されている。(編集部)

辰巳俊輔さん(明日香村文化財課主任主事) が 9 月 10 日 83 名に「**飛鳥・藤原京の発掘・保存・活用―世界遺産登録に向けて**」と題し講演。



奈良県と橿原市、桜井市、明日香村は 2025 年、世界文化遺産登録を目指し文化庁に推薦書を提出し諸準備を進めている。

飛鳥・藤原の魅力は、飛鳥京 100 年、藤原京 20 年の古都で飛鳥寺や石舞台古墳、高松塚古墳があり日本の律令国家の先駆けといえる。その明日香は山並みだけでなく田圃や住まいの佇まいなど昔と今は殆ど変わらない。

古墳や古代寺院の礎石を「伽藍石」、「伽藍洞」と自らの庭園に移設することが流行したが、法隆寺の金堂壁画の焼失などから「文化財保護法」が制定されて、学術上の価値が特に高く、わが国文化の象徴たるものは特別史跡と規定。2022 年 9 月 10 日現在、特別史跡 63 件(奈良県 10 件、福岡県 5 件、岩手県・茨城県他 3 件など)史跡 1872 件。また「明日香法」では明日香村全域を古都保存法の歴史的風土保存地区として、現状変更を抑制、住民との調和を図るため支援も実施されている。(編集部)

次回の平城京 歴史講座(いざない館)

10 月 8 日: 三野拓也(正倉院事務所保存調査室員)
「正倉院文書を「読む」」

11 月 12 日: 小田裕樹(奈文研考古第二主任研究員)
「盤上遊戯「かりうち」の復元とその意義」



▶ 史跡指定 100 周年記念ゆるキャラが登場。[右下の 100(∞)も必見]

(編集部)

都城発掘調査部平城地区考古第三研究室研究員



1996 年福岡県糸島市生まれ。2019 年京都大学文学部卒、2021 年同大学院文学研究科修士課程修了、同年 4 月奈文研都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員に

採用。2022 年 4 月平城地区同研究室に配置換えとなり、現在に至ります。

考古第三研究室では、発掘調査で出土した瓦磚類を中心に出土遺物の整理と研究に従事しています。奈文研が調査する機会の多い宮殿や寺院などの遺跡では、非常に多くの瓦が出土します。同研究室には、瓦の文様や作り方、出土場所や出土量など様々なデータを分析して、瓦工房での生産から宮殿・寺院での使用に至るまでの貴重な情報を引き出すことが期待されます。NPO 平城宮跡は古代瓦のレプリカ製作、瓦保管庫での研修、ツアーガイドなど活動当初から同研究室に大変お世話になっています。

田中さんの専門は考古学ですが、学生時代から瓦の生産と流通に関心があるとのこと。とくに平安京の瓦が専門でしたが、最近は奈良県（旧大和国）内における平安時代の瓦についても研究をおこなっているそうです。

奈文研に入所して二年目、平城地区に来てまだ半年で、奈文研での現場経験はまだまだとのことですが、昨夏は興福寺東金堂院の発掘調査に参加されたそうです。これまで瓦ばかり研究してきたということもあり、これから担当する発掘調査での発見や経験を活かして自身の研究の幅を広げたいと言います。

このほかにも、瓦の研究者らしく瓦の文様の移り変わりや生産と流通のありかた、平城京と平安京の緑釉瓦など、研究者の視線で分かりやすく説明をいただきました。また、NPO 平城宮跡に対しては講演など普及活動を惜しまないとのこと。

学生時代は弓道に励み、なんとか参段まで取得。今は日々サッカーに汗を流し、休日は自身の研究や寺社巡り、家の片付けに忙しいという話でした。（編集部）

平城宮跡を“楽しむ”人たち

NPO 平城宮跡の会員募集

“特別史跡平城宮跡で私たちと一緒にボランティア活動をしませんか”

募集内容

- ・環境保全ボランティア（宮跡・周辺のクリーン活動やパトロール活動）
- ・公園ガイド（いざない館/大極門/復原情報館でのご案内）



まずは説明会にお越しください。

説明会 令和 4 年 11 月 25 日（金）

- ・環境保全ボランティア 10 時 30 分から
 - ・公園ガイド 13 時 30 分から
- いずれも平城宮いざない館多目的室

お申込み ☎0742-34-7713

11 月 1 日～11 月 18 日まで NPO 平城宮跡へ。
電話のみの受付です。（事務局）

「ひかり拓本」へのご寄付のお知らせ

この度、奈文研のデジタル拓本技術「ひかり拓本」を皆様にご利用いただけるアプリを開発するため、クラウドファンディングに初挑戦いたします。

ご寄付にはお振込みとともに、申込書が必要となります。詳細は、下記奈文研ホームページまたはお電話にてお問合せください。

寄付金額：5000 円～

開催期間：2022 年 10 月 5 日～12 月 2 日

お問合せ：0742-30-6733（奈良文化財研究所総務課）

<https://www.nabunken.go.jp/fukyu/event2022.html#hikaritakuhon2022>

新規会員の紹介

10 月 1 日現在（50 音順）

今西彩子さんが入会しました。

＜ボランティア活動 入会お申し込み＞

- ❖ 個人が支援/活動。年会費 3000 円
- ❖ 法人が支援/活動。年会費 10000 円

編集後記

秋は、『食欲の秋』『実りの秋』『読書の秋』と言われます。いずれも本能的なものです。シルバー世代の皆さまは、ほどほどにしましょうね。（萱鼠）